

2014年3月22日

飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

講演者、報告者への質問、ご意見、ご提起発言希望文書

希望対応者	内容	名称	組織名称
岩波室長	飼料用米の給餌促進を目的とした畜産生産者に対する何らかの助成措置をご検討いただきたい。	木村友二郎	木徳神糧(株)
岩波室長	飼料用米の拡大に保管・流通体制が課題とお聞きしましたが、課題について具体的にお教えてください。また、これらの設備について交付金制度があるようですが、詳細を教えてください。	中川祐司	全農チキンフーズ(株)
岩波室長	飼料用米の交付単価の「標準反収」は、地域ごとに違うというが、その範囲は市町村か、もっと狭い字(あざ)単位か?市町村内でも収量は違う。山間地は少ない。	中沢睦夫	しんぶん赤旗
岩波室長	平成25年の飼料用米の収量が減ったのは何故でしょうか? 行政としての分析の原因分析およびその対応についてご説明をお願いします。	村田 暁	昭和産業(株)
岩波室長	加工用・食用のくず米を飼料用として販売することが可能となるという事は水田フル活用ビジョンに有りますか? 農業を支える意味としては、消費者も求めるものでなければならぬと考えますが、お話しされていた Non-GM や国内自給についてもっと広く伝えていく必要がありますが、行政としてはどのように理解を広げるお考えですか?	佐野めぐみ	生活クラブ生協
岩波室長	水田は日本の気象、大雨などの自然災害に有効であり、水田を活用するのに税金を使うのは国民の生活を守るためにも大切。その水田フル活用のための飼料用米に税金を使うのは大賛成。 しかし、税金が途中でカットされたり、制度が変わると困る生産者が多い。 5年とかではなく、20年~30年というスパンのできないのでしょうか? 東京の農業も頑張っている。農水省では東京の飼料用米の補助はしてもらえるのか。東京の水田も残したい。	岡本真理子	多摩の暮らしを考えるコンシューマーズネットワーク パルシステム生協東京

谷専任部長	<p>飼料用米を低価格にしていこうと合理化やF1を入れると自然の中の循環のコメ作りではなくなる。キーワードは、循環だと思う。100年先までできる飼料用米づくりが続いてほしい。コメ作りの文化に組み入れてほしい。</p>	岡本真理子	多摩の暮らしを考えるコンシューマーズネットワーク パルシステム生協東京
谷専任部長	<p>飼料用米を家畜に食べさせるまでのコストの問題を指摘していましたが、現在、日本の田舎は遊休水田畑（農家の高齢化等で）が拡大していると感じる。そうした土地を活かすには、そうした土地で飼料用米作りと畜産を複合的に営業すればコストは少なると思った。早い話が稲の実った田でウシを放牧する。（・・でも、牛は稲を食べないのかな？）</p> <p>谷さんは、「日本の将来（例えば2060年）はこんなに人口減ですよ！」とおっしゃったが、私は今60歳近いので2060年には多分生きていないだろう。人口が少なくても平気。しかし、もし生きていたなら、テレビなどで見る東南アジアのタイやインドネシアなどの農村の光景が日本にあれば良いと思う。すなわち、田舎の家の周りに水田が拡がり、放し飼いの牛や豚、鶏がそこら辺にいて。さながら人と動物（家畜）と田畑・水田など皆、強制している風景。それがコストがかからない。日本の50年先はそういう方向に行けば良いのに。それは夢でしかないのでしょうか？</p>	匿名（サワ）	八王子市 主婦
岩波室長 谷専任部長	<p>日本の人口減に伴う食糧（食料）自給率はどうなるのか？人口減に向けた食糧（食料）の国の政策はあるのか？</p> <p>全農の政策はあるのか？</p>	奥村隆夫	不記
岩波室長 谷専任部長	<p>わかりやすい講演ありがとうございました。その上で以下の2点をお伺いします。</p> <p>① 飼料用米が、平成24年(183万トン)から平成25年(115万トン)に大きく減少した原因は何ですか？</p> <p>② 今後の見通しとして、①の状況を再び増加させることができるとお考えですか？また、そのためには、何が最も大切な対策とお考えですか？</p>	小熊竹彦	日本生協連
岩波室長 谷専任部長	<p>私は平成15年3月、都立の短大図書館を定年退職した後、平成20年3月まで東京都畜産試験場で</p>	鈴木省司	生活クラブ生協組合員

植村会長	<p>TOKYO Xの飼育をしました。その頃、餌は米国産で不安でした。国産飼料米が注目を浴びようになってホッとしていますが、2013年の生産量が急減したことが不安です。私たち消費者は何をなすべきでしょうか？</p> <p>飼料米を餌に使用している畜産物を購入して応援してください。</p>		
谷専任部長	消費を増やすための策を全農として広げるお考えですか？どんなお考えがありますか？	佐野めぐみ	生活クラブ生協
谷専任部長	2013年に飼料用米の生産量が大幅に減少した理由？	鈴木省司	生活クラブ生協組合員
植村会長	<p>① TOKYO X豚の飼料に東京都畜産試験場（現：青梅畜産センター）が主任した経緯。</p> <p>センターが、遺伝管理と飼養管理を中心に行っているから。</p> <p>② TOKYO Xと言いながら、宮城県や茨城県等他県生産が拡大する現状をどうするのか？</p> <p>TXの生産管理マニュアルや理念を順守する生産者に生産を積極的に応援してもらっている。東京の生活者のためになる。生活者の本当に欲しいものが何なのか、生産者＝生活者の環境下（東京）でモデルを作り日本全国にこの取組を広めていきたい。</p>	鈴木省司	生活クラブ生協組合員
植村会長	<p>TOKYO X豚は都内で生産なので環境、住宅地との共存が難しい。自分の住む国分寺の榎本さんも休んでおられる。生産する農家と頭数をどう確保するのか？</p> <p>東京は野菜の生産は非常に盛んです、ここに家畜から出る糞でたい肥を作り循環型の農業モデルを作り公害対策に取り組んでいる。住民との交流や理解が必要と考えている。TXの生産理念に共感してくれる他県の生産者にも生産を応援してもらっている。</p>	岡本真理子	多摩のくらしを考えるコンシューマーズネットワーク パルシステム生協東京
植村会長	<p>八王子住民として、八王子産の産物や農家を応援しているが、特産豚の「TOKYO X」という呼称が好かない。なんで「X=エックス」なのだろう・・・とかねて思っていた。まるでX線=放射能を浴びさせた肉のような・・・。ネーミングを変えたらいかが？</p> <p>TXは未知の可能性という意味で「X」を使っています。生活者のニーズに合わせて進化することを目指しています。動物福祉、nonGMO 飼料、循環型農業、飼料米等の取り組みをしています、そして常に未知の可能性「X」を模索しています。</p> <p>昔の「X JAPAN」も同じコンセプトかも・・・</p>	匿名（サワ）	八王子市 主婦

植村会長	<p>① 現在、どのコメをどんなルートで入手されていますか？ 東日本くみあい飼料様に配合をお願いしています。飼料米の供給は全農になります。</p> <p>② また、配合割合が15%であるのはどんな理由か？ 肉質改善に最低限の必要量と考えています。</p> <p>③ 今後、配合割合は増やす可能性はあるか？ 肉質改善や生活者の要望により見直すことを積極的に取り組みます。飼料米のスタートは、まだ始まったばかりです。(1月15日から導入)</p>	依田賢吾	農文協
植村会長	<p>TOKYO Xの肥育期間は？ 7ヶ月程度です。TDN(カロリー)の餌を与えているので長いものは8ヶ月を超えてしまう豚もいます、正直個体差が有るのが現状です。 飼料用米15%配合は全期間を通じてでしょうか？ 餌には、前期(人工乳)、中期(仔豚用)、後期(成人?豚)と別れています。飼料米配合は後期に用います。3から4ヶ月程です。 広い肥育スペースとはそのくらい？ 動物福祉の基準で1㎡以下はTX飼養管理マニュアルで禁止されています、おおむね2~5㎡程です。放牧のような飼養管理ではありません。</p>	奥村まゆみ	生活クラブ生協かわさき
植村会長	<p>TOKYO X豚の価格を教えてください。 枝肉価格(骨付き肉)700円/kg。 正肉価格(スーパー用原料肉)1312円/kg。</p>	辻 成子	生活クラブ生協
三輪組合長	<p>組合役員の皆さん、年齢が高いが、後継者問題は怎么样了か？ ご長男が既に就農されている(飼料用米ではないが)方や、就農されていなくとも近所にご長男がいらっしゃり将来的には後を継がれる可能性が高い方、嫁さんが継がれる方、奥さんやご親戚も飼料用米と一緒に携わっておられる方、50~60代でまだまだ後継者問題は先の話となる方など、農家によりまちまちではありますが、差し迫って問題を抱えている状況はありません。概してみなさん大規模なだけに、経営的にも後継者をつくりやすい環境にあるようです。</p>	鈴木省司	生活クラブ生協
大川理事	<p>産地に行くことは学ぶことが大きい。生産者に受け入れてもらうのもなかなか難しいが、生産者との交流はどのくらいできるのでしょうか？</p>	岡本真理子	多摩のくらしを考えるコンシューマーズネットワーク パルシステム生協東京
大川理事	<p>ポーランド秋田県の豚の密飼に疑問を感じましたが、し尿等の処理はどうなっていましたか？</p>	鈴木省司	生活クラブ生協

皆様に	<p>農薬の残留について</p> <p>「問題の有る無し」ではなく、モミ米使用の畜産物については、積極的に消費者に使用状況を公開すべきと思うが、この点について、事例紹介や情報があれば・・・・・・・・。</p>	斎藤真二	(株)フリーデン
-----	---	------	----------

以上

この文書は、会場で回収した用紙を整理したもので、内容等について一切の変更をしております。

2014年3月22日
 飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会
 事務局 [超多収穫米普及連絡会]